

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

選択式(用語・地名の選択, 統計判定), 記述式, 論述式

分量・難易(前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易(易化・変化なし・難化)

大問4題, 選択式・記述式の解答個数は昨年に比べやや減少。論述式は, 字数指定のある設問のほか, 昨年に続き字数指定のない短文論述が多かった。論述式で字数指定のあるものが6問(昨年は8問), 総字数は360字(昨年は340字), 字数指定のない短文(1問につき20~30字程度の解答枠)が7問(昨年は8問)で, 全体の字数は昨年と同程度である。大問ごとでは, 字数指定のあるもの, ないものの順に, Iが2問(150字)と1問, IIが1問(50字)と2問, IIIが1問(60字)と4問, IVが字数指定のあるもののみ2問(100字)となっている。設問ごとの字数は最短40字, 最長90字であった。昨年に比べ地形図の読図は易しいが, 統計図表の読み取りが難しく, 論述にも題意がわかりにくいものが増えて, 難化した。

出題の特徴

本学の大問は, 自然(または地図), 産業, 社会および地誌の4分野から構成されることが多い。本年度はIが地形図の読図, IIが産業, IIIが社会, IVが地誌分野からの出題であった。近年は, 図表の読み取りを求める設問が多く, 本年度はIで地形図と写真, IIでグラフ, IIIで地図, IVでグラフと表が使用された。

トピックス

従来, 20字, 30字と指定されていた論述が, 本年度は字数指定のない形式に置換されたようである。また, IVの比較地誌は, 新課程に準拠したテーマ設定である。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ		難易度
I	記述式 論述式	地形と地形図の読図	2万5千分の1地形図(福岡県の平尾台), U字谷の写真使用。カルスト地形と氷河地形。論述は(4)鍾乳洞の形成過程(60字), (7)北ヨーロッパ西岸に多雪をもたらすメカニズム(90字)と(2)石灰岩の採石場の特徴。(2)は(3)がヒントになる。記述式は地形名など。論述を含め基本問題が大半だが, 論述はともに指定字数がやや長いので, 論理に矛盾が生じないよう文の組立てに注意したい。	標準
II	選択式 記述式 論述式	産業・貿易	情報通信技術(ICT)産業と貿易。ICT産業の財部門とサービス部門の比率を示すグラフ, サービス輸出の内訳を示すグラフ。論述は(4)先進国のICT産業の開発・貿易の特徴(50字)と, (3)ICT産業が空港近辺に立地する理由。(3)は難しいが, ICT産業が財部門とサービス部門からなる点に注目して考える。(1)・(5)のグラフは受験生には初見なので, 判定に時間がかかる。	やや難
III	選択式 記述式 論述式	国家群	NATO, OPEC, OAPEC, ASEAN, EU加盟国を示す地図使用。(5)NGOの役割(60字), (1)NATOの目的, (3)EUの意志決定過程の特徴と, APEC加盟国の地理的特徴, (4)トルコのEU加盟が実現しない理由。(3)は地理の問題として妥当といえるか疑問が残る。(5)は設問の主旨を読み取りにくく, 書きづらい。	標準
IV	選択式 記述式 論述式	比較地誌	朝鮮半島とイベリア半島の比較地誌。半島の人口などの比較表, ハイサーグラフ, 国ごとのエネルギー源別発電構成を示すグラフ。論述は, (3)ソウルとマドリードの夏の降水量の違い(60字), (6)韓国とスペインの宗教(40字)。論述を含め大半の問題が基本問題だが, (5)のグラフ判定は, 伏せられた項目数が多く難しい。	やや易

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書を利用した基本知識(地名や用語)の蓄積は当然だが, 論述式への対応として, 基本的な地理用語の語義, 自然や人文現象の地域的な違いとその理由・背景などについて, 簡潔に(20字~100字程度)ポイントを絞って書く練習を繰り返すことが必要である。加えて, 地形図や統計図表の読み取りなど, 地理的技能や思考力を試す出題が多く, 難易度も高いので, 日頃から図表の読解力を高めるよう心がけたい。なお, 「産業構造とその変化」や「都市・人口・交通」のように出題頻度の非常に高いテーマもみられるので, 過去問の研究は不可欠である。